

キャンパス散策（名古屋大学）

概要と沿革



名古屋大学が位置する東海の地は、豊かで美しい自然に恵まれ、古代より東西の要衝の地として発展してきました。400年ほど前に名古屋に入府した尾張徳川家初代藩主の義直公は学芸の道に造詣が深く、寛永6（1629）年、学問の殿堂である「聖堂」を創設し、学問の振興に力を注ぎました。



名古屋城

明治の文明開化の時代を迎え、名古屋藩種痘所の伊藤圭介ら先覚者は、いち早く藩に働きかけ、その結果、明治4（1871）年5月、藩（同年7月廃藩置県により名古屋県）は医学校及び病院を開設しました。これは近代西洋型の学校、人材養成を目指したものであり、名古屋大学の礎として位置付けています。

一方、総合大学の歩みとして、昭和6（1931）年に名古屋医科大学、昭和14（1939）年に名古屋帝国大学、昭和24（1949）年には学制改革により、文学部、教育学部、法経学部、理学部、医学部、工学部からなる新制名古屋大学が発足しました。

以来、日本の中核的・基幹的な総合研究大学として発展を重ね、現在は、9学部、13研究科、3附置研究所、2全国共同利用施設、17学内共同教育研究施設等を擁し、学生16,614人、また、世界76の国・地域から1,680人の留学生在が学んでいます。



豊田講堂（夕景）

本学では、自由闊達な学風の中、非常に優れた研究成果を生み出し、社会に貢献する人材を育てています。21世紀にノーベル賞を受賞した日本人科学者は9名ですが、そのうち4名は本学の関係者です。

英語新カリキュラム（アカデミック・イングリッシュ）の実施

国内外で指導的役割を果たしうる人材を養成するためには、英語教育の品質保証を行い、学生の英語力の飛躍的な改善を図ることが必要です。本学では、入学当初の1年生の学力底上げを目指し、さらに、習熟度に対応した履修コース制度を採り、効果

的な英語教育、自立的学習体系を構築するために英語新カリキュラム（アカデミック・イングリッシュ）を平成21年度から開始しました。

新カリキュラムの主な特徴は、①TOEFL-ITPとCriterion試験による語学力の習熟度と向上度の測定、②習熟度別コース選択制と積上げ型学習による、語学力の段階的な底上げと成績上位者のより高い水準への誘導③論理的文書作成技法である、パラグラフ・リーディングとパラグラフ・ライティングの導入による、学術論文の読解力と論文執筆能力の補強、④通常の対面授業とeラーニングによる自主学習を併用するブレンドッド学習法の検証、⑤学習履歴による教育効果や学習効果の分析とフィードバックとしています。

なお、濱口総長が提唱する「世界で活躍できる人材の育成」と「語学能力の向上と国際感覚の醸成を図る」目的で、平成22年夏には、学習結果が優秀な学生をオーストラリアのモナシュ大学が実施する短期語学研修に派遣し、また、会話に重点を置いたコミュニケーション能力向上を希望する学生を募り、中国の同済大学での短期語学研修に参加させるなど、積極的な日本人学生の海外研修も実施しています。



キャンパス

「エースラボ」[Autonomous learning Community and Environment (ACE)]の設置



エースラボ

学生が個々に、または複数で協調して行う自主学習を高い次元で支援・実現でき、自律的な学習と自由闊達な学習コミュニティをともに促進する環境設備として自主学習室「エースラボN」及び「エースラボS」を新たに設置しました。

「エースラボN」では、自主学習を強化する環境を主に提供するため、集中的かつ効率的な学習を支援するデスクトップ型端末により、通常の講義室形式による構成とし、一方「エースラボS」では、協調学習を重視する環境を主に提供するため、移動が容易なノート型端末により構成し、さらに、学習目的に応じて机を機能的に再配置するフリーレイアウト方式を採用し、創発的な学習コミュニティの形成を支援できる設備や機器を導入しました。

開放的なアメニティ空間を備える食堂：南部食堂

平成22年4月には、昭和44年からの営業以来老朽化が進み施設改善を必要とされていきました南部食堂を改築しました。

新食堂は、学生のニーズ・要望を踏まえ、「食事空間の快適さを保った開放感のある食堂、また、食事以外にも学生のくつろぐ空間及びゆとり・憩いの場として活用できる食堂」というコンセプトに基づき、地上2階、地下1階建に改築され、旧食堂よりも面積が約2倍になり、広く学生・教職員に親しまれる食堂に生まれ変わりました。

1階の食堂は、428席を擁するカフェテリア食堂として、また、時間外には300人規模の学会や懇親会等の会場を提供できるようになりました。

2階の食堂は、様々な飲食コーナーを持つ選択性のある空間となっているとともに、午前から夕方までの営業時間とし、食事以外にも学生の憩いの場として活用することができます。

なお、両階ともインターネットが利用できる無線LANの環境も整えています。



南部食堂全景



南部食堂内部



南部食堂風景



理学部（クレイグスカフェ）